

別紙様式

令和7年度 学校評価自己評価表（最終）

a ミッション	ふるさと世羅を誇りに思い、地域の活性化に取り組む生徒の育成	a ビジョン 他者や郷土を大切に、自ら進んで学び、何事にも一生懸命に取り組む生徒の育成	世羅町立甲山中学校
---------	-------------------------------	--	-----------

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画				
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案		
				g 達成値	g 達成値	イ			ロ	ハ					
確かな研究学主力の育成	基礎学力及びコミュニケーション能力を高め、自発的に他者と協働して課題解決を図る生徒の育成	基礎学力（知識・技能）の向上を図る。	・各学力調査結果の分析に基づく学力向上に取り組む。	・全国学力・学習状況調査及び標準学力調査の平均正答（通過）率	全国以上	全国学力・学習状況調査 国語37%・1.3pt 算数34%・1.4.3pt 理科38%・1.5.0pt	国語49%・1.6pt 算数42%・1.5pt 理科47%・1.6pt 英語37%・1.0pt 総合38%・1.5pt 体育44.2%・1.0pt	54%	C	7	イ	ロ	ハ	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組がなされており、先生も熱心に指導している。 学力調査結果について、授業で生徒は落ち着いて学習しており、よく結果を分析し、改善に努めていきたい。 数学がよくないところが気になる。あまり理解できていないまま進んでいるのかと気になる。ただ参観した授業では工夫していたので、引き続きお願いしたい。 教科による数値のばらつきがあるので、授業内容がわからない生徒への対応をお願いしたい。 定期テスト前の学習会などを充実させてほしい。 家庭学習の習慣化に向けて、家庭学習の具体例の提示や課題の工夫を行い、保護者とも連携しながら継続的な取組を推進する。 1人1台端末の効果的な活用事例に行動できていることは喜ばしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査結果を丁寧に分析し、特に数学を重点教科として計画的に授業改善（基礎的・基本的な内容の定着確認、個別指導、補充学習等）に取り組む。 教科間で授業方法や評価の好事例を共有し、授業研究や校内研修を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。 授業内容の理解が十分でない生徒に対しては、少人数指導や補充学習、定期テスト前の学習会を充実させる。 家庭学習の習慣化に向けて、家庭学習の具体例の提示や課題の工夫を行い、保護者とも連携しながら継続的な取組を推進する。 1人1台端末の効果的な活用事例に行動できていることは喜ばしい。
			・家庭学習の習慣化に向けた取組を充実させる。	・「毎日60分以上家庭学習している」と回答する生徒の割合（R6：25%）	80%	53.0%	49.0%	62%	C						
			・各教科の目標達成のため、1人1台端末を効果的に活用する。	・「毎日Chromebookなどのデジタル機器を活用している」と回答する生徒の割合（R6：50.8%）	90%	34.0%	96.1%	107%	A						
			・「主体的・対話的で深い学び」を促す授業改善に取り組む。	・各教科の授業において「授業内容がよく分かった」とより肯定的に評価する生徒の割合（R6：67.5%）	80%	国語55% 算数54.4% 理科57.1% 英語54.4%	国語52% 算数52.8% 理科51.8% 英語54.4%	65%	C						
豊かな人間性と自他の良さを認め合える生徒の育成	生徒の自己肯定感を高め、自信を持たせることで、不登校の改善を図る。	・SSRを中核とした不登校等生徒の支援を行い、良好な人間関係を築くためのスキルを育てるためにソーシャル・スキル・トレーニング（SST）に取り組む。	・「自分には良いところがある」とより肯定的に評価する生徒の割合（R6：67.5%）	80%	50.4%	52.4%	65%	C	7	イ	ロ	ハ	<ul style="list-style-type: none"> どの学年も人間関係ができているように思う。 いずれの項目も改善できてきているので、引き続き、取組を進めていきたい。 不登校生徒への取組が評価できる。 不登校生徒が少しずつ家から出てSSRなどに行けているという話が聞けて良かった。先生が親身になって関わっているおかげだと思う。 学校外の教育資源を活用した学習が生徒の自信の涵養につながっていると思う。 クリーン大参戦では、中学生が率先して小学生に優しく接している姿に感銘を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校対策については、引き続き、SSRや支援コーディネーター（教育相談担当者）を中心に、SC・SSW、小学校や中学校で支援課・福祉課、県東部こども家庭センター、療育・医療機関等と連携しながら取り組んでいく。 自己肯定感の涵養については、引き続き、生徒主体となるような学習活動等の創意工夫を行う。 学校運営協議会も活用しながら、地域行事等について積極的に情報発信する。 	
			・不登校等の状況が好転する生徒の割合（R6不登校児童・生徒：10名）	50%	50.0%	50.0%	100%	A							
			・「今住んでいる地域の行事などに参加した」と回答する生徒の割合（R6：72.5%）	80%	75.9%	74.2%	93%	B							
子供と向き合う時間の確保	働き方改革を推進し、「子供と向き合う時間」の確保を図り、教職員が生き生きと働ける職場を実現	教職員のタイムマネジメント力を高め、業務の見直しを行い、時間外勤務を縮減する。	・毎週の定時退校日を5時間授業にして業務に使える時間を捻出したり、業務の精選をしたりして、「子供と向き合う時間」を確保する。	・定時退校日に定時退校している教職員の割合（R6：84.7%）	90%	88.9%	94.4%	94.0%	B	7	イ	ロ	ハ	<ul style="list-style-type: none"> 先生方の日々の努力で、定時退校率等が向上していることは、とても望ましい。 いずれの項目も改善できてきているので、引き続き、取組を進めていきたい。 勤務時間内に仕事を終わらせるのは難しいと思うが、少しずつ改善してきており、良い傾向だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、業務に使える時間を捻出したし、業務の精選をしたりして、「子供と向き合う時間」を確保する。 学校施設の開設・施設を管理職3人による輪番制にしたり、現在教頭担当している会計を事務長が行ったりするなど、教頭の業務改善を図る。
			・時間外勤務が月60時間以下の教職員の割合（R6：100%）	100%	94.4%	94.4%	94%	B							

【自己評価 評価】
 A：100≦（目標達成）
 B：80≦（ほぼ達成）<100
 C：60≦（もう少し）<80
 D：（できていない）<60

【学校関係者評価】 イ：自己評価は適正である。
 ロ：自己評価は適正でない。
 ハ：わからない。